

おおいた国際交流プラザ

OITA INTERNATIONAL PLAZA

La Estación

vol. **30**

2011

ラ・エスタシオン

スペイン語で、局や駅の意。当誌が県内の国際交流・協力情報の発信地として、広く親しんでいただけるよう願いを込めてつけました。



寄稿 多文化共生なくして地域に未来なし!

第6回 **多文化共生PR大作戦**.....1-2

自治体の紹介 臼杵市.....3

団体の紹介 日中友之会.....3

国際的に活躍している人々の紹介.....4

ドイツ副総領事 シュテファン・ピーダーマン氏

JICAデスク大分からのお知らせ.....4

Event Calendar.....5-6

私たちの声を聞いてください!.....7

吉武ロドラ氏

Information.....7

(財)大分県文化スポーツ振興財団

「マナローラ、チンクエ・テッレ、イタリア」
写真家:yuko k.

第6回

多文化共生PR大作戦

昨年度のNPO法人多文化共生マネージャ全国協議会の副代表理事高木知彦氏（滋賀県商工観光部国際課 主査）、同理事高橋伸行氏（舟橋市子育て支援部児童家庭課 主査）、同理事前川仁三夫氏（NPO法人とんだばやし国際交流協会 事務局長）のリレー寄稿に引き続き、今年度は、国際交流協会職員の須磨珠樹氏（（財）かながわ国際交流財団多文化共生・協働推進課）、須藤伸子氏（（財）仙台国際交流協会 企画事業課企画係長）、原由理恵氏（射水市民国際交流協会）にバトンタッチし、各協会における多文化共生施策についてご紹介いただいています。第6回目は原由理恵さんの寄稿です。

▶ はじめに

多文化共生—この言葉は国際交流・協力、外国人支援に関心のある方や、外国人集住都市の方には馴染みがあると思いますが、一般にはどれくらい知られているのでしょうか。「たぶんかきょうせい」とパソコン入力すると、他文化強制と変換候補の先頭にあがることが多いことから、耳慣れない言葉であることが分かります。富山県は平成19年に多文化共生推進プランが策定されましたが、外国人登録者数が多い射水市でも、あまり知られていないのが現状です。今回は、多文化共生を推進する私たちの取り組みをお話したいと思います。

▶ 友達がほしい

外国人住民から「同じ職場に日本人はいるが会話もなく、交流する機会がない。日本人の友達がほしい」と相談されることがあります。読み書きはできませんが、日常会話には支障がない人たちです。このような時には、外国人と日本人が知り合うきっかけとなる国際交流イベントに誘ったり、日本語教室を紹介したりします。日本語教室は日本語習得の場だけではなく、出会いの場でもあるからです。協会では陶芸体験やミニツアーなどの交流事業を毎年行っています。参加者の多くは、国際交流や多文化共生に興味・関心のある人たちが多いということもありますが、一緒に体験したり、チーム別で競争をしたりすると、お互いの距離が一気に縮まり、打ち解けることが多いのです。「イベントがきっかけで友人になり、餅つきをいっしょにやった」「家が近いことがわかって、回覧板を読んでもらえるようになった」と言う話を聞くと、とてもうれしくなります。しかし、協会がより目を向けなくてはいけないのは、共生に無関心な人たちです。外国人には地域に馴染んでもらえるよう、日本人には外国人が多い地域、少ない地域に関わらず関心を持ってもらえるよう働きかける必要があります。外国人の定住化が進む今、彼らを同じ地域の重要な構成員と認め、よりよい関係を築き、協力し合うことが地域づくりにつながることを知ってもらいたいです。



市内の隠れた観光スポット

▶ 知り合い、そして互いに学びあう

協会では、国際理解講座を開催しています。これは在住外国人をゲストスピーカーに迎え、出身国の歴史や文化だけでなく地元ならではの情報、そして彼らの思いを話してもらえる貴重な講座です。外国人に日本を知り、馴染んでもらうことも必要ですが、私たち日本人がほかの国への理解を深めることは大切なことです。参加者からの質問に直接答えてもらうことによって、新しい発見があり、今までの誤解が解けて、偏見が少なくなることもあります。「韓国では初対面で年齢を聞くことは失礼ではありません。年長者には敬語で話さなければいけないからです。一緒に食事に出かけたら、支払いをするのは必ず年長者です。」と聞きました。皆さん、ご存知でしたか？

▶ エンパワーメント

私は国際理解講座や語学講座の講師を、在住の外国人にお願いするようにしています。彼らに自信と誇りを持って、母国の言葉、歴史や文化、故郷の良さを、日本人に発信する機会を作りたいからです。「人材の宝庫・射水」には30カ国以上から、知識や経験が豊富な、いろんな可能性を持つ人たちが集まり生活しています。その中に結婚を機に来日、10年近く富山に住む韓国女性がいまし



未来を担うこどもたち

た。彼女との出会いは交流イベントなどではなく、全くの偶然でした。協会事務局が近くにあることを伝え、時々顔を出してくれるようになりました。「日本語での日常生活、漢字の読み書きにも問題ないけど、家族以外に友達と呼べる日本人がいない。子供も小学生になるので、仕事をしたい。」そう打ち明けてくれるようになりました。何かサポートできないかと考えていた頃、韓流ブームが始まりました。協会でも韓国語講座の開講を考えていたので、私は彼女に講師をやってみないかと持ちかけました。経験はありませんでしたが、彼女の持つ雰囲気とやる気をかい、テキスト選びや授業の進め方など相談にのりながら、準備を進め開講の日を迎えました。出会いから数年、彼女は経験を積んで、今では民間の語学学校で講師として働いています。このように協会は、在住外国人のエンパワーメントにも積極的に取り組み、彼らの可能性や活躍の場を見つけ出す手助けができると思います。

▶ 人材の宝庫・射水の将来

外国人住民は若い世代も多く、地域を支える重要なパートナーです。外国人を受け入れなければ町内会など、地域の維持ができないレベルではありませんが、少子・高齢化が進んでいる射水市にとって外国人住民との共生は、新しいまちづくりの起爆剤になることでしょう。2月に市長と外国人住民の意見交換会が初めて実現します。外国人住民からは要望や苦情だけでなく、彼らだからこそ気づくこと、共生のための前向きな提案がされ、有意義な話し合いができることを期待しています。

「人材の宝庫・射水」の多文化共生PR大作戦は、まだ始まったばかりです。



Profile

射水市民国際交流協会 原 由理恵

大学卒業後、オーストラリアへ短期留学、ワーキングホリデーでニュージーランドへ。帰国後は英語講師を経て、平成15年より現職。

仏教文化遺跡の縁で

友好交流都市 敦煌市との交流

臼杵市役所 総務部 主査 梶原 弘記

臼杵市は、1995年（平成7年6月15日）、磨崖仏としてわが国で初めて国宝に指定された「国宝 臼杵磨崖仏」などの石仏群を有する町です。一方、中国甘肅省敦煌市はシルクロードの要衝の地として栄え、中国最重要文化財で、世界遺産でもある莫高窟をはじめとする石窟を有する都市です。臼杵市と中国敦煌市は、仏教文化遺跡の取り持つ縁で、1994年に友好都市の締結を行いました。16年が経過し、その間幾度となく親善訪問団を派遣するなど、両都市の文化を通じた交流を深めてまいりました。

敦煌市の紹介により、中国文化の研究を通してお互いの理解を深めることを目的として、2007年、2010年に甘肅省の蘭州大学へ、また、2008年7月末から約1ヶ月半、臼杵市職員1名を敦煌市に派遣しました。日中両国、両市の状況、文化等への相互理解を深めながら、更なる友好関係を高めています。

こうした人的交流を進めるなか、新たな取り組みとして農業分野での交流を促進し、両国の農業振興策を模索しようと、2008年11月、敦煌市副市長ほか2名が臼杵市農業の現状視察を行い、農業分野における「農業研修職員派遣協力基本合意書」の締結が実現しました。この合意書に基づき、市の職員や農



蘭州大学での授業の様子



世界遺産 莫高窟

業技術者等を交換して交流研修事業を行いました。

このような交流の経過を踏まえ、改めて「お互いの歴史・文化を尊敬あい、友好を深める」ため、「ふかたこころこみち 深田心の小径」石碑設置工事を行い、石碑が完成しました。これは、敦煌市から日中両国の偉人の言葉を刻んだ石碑を寄贈いただいたことを受け、臼杵石仏公園の沿道に石碑を設置したものであります。

国際交流を進めていくなかで、姉妹・友好都市はもちろんですが、各国の文化、情勢等をお互いに伝え合い、理解する場を設けることが大切だと感じます。出会う人々が国境を越え、民族や文化を大切にしていることを相手に伝えて、感じあうことが必要です。臼杵市と敦煌市がこれから先も「意思」を伝え合える架け橋になるよう心がけたいと思います。

大分の国際交流団体の紹介

日中友之会について

日中友之会は平成5年に発足した国際交流とボランティアを目的としているグループで現在24名の会員で活動しています。

当時「餃子のお店」を開いていた時松徳夫さんがお店に来た中国留学生の生活が厳しいことを耳にして、少しでも留学生活の手助けをしたいと考え常連のお客さんや友達に呼びかけたのがこのグループ発足のきっかけとなりました。

発足当時はリサイクルの電化製品や寝具などを集めて、中国留学生に提供してきました。現在は大分大学中国人留学生と中国残留邦人帰国者との交流や支援活動を行っています。

大分大学中国人留学生とは毎年2回交流会を開き、日本の家庭料理作りと共に、お茶や生け花など日本の文化を紹介しています。



中国人留学生との交流会



中国人留学生とのおにぎり作り

グループの発足：平成5年5月

会員：24名

交流対象：大分大学中国人留学生

中国残留邦人帰国者家族 26 所帯 34 名

さらに交流会を通じて会員との個人的な交流も進め、大分の文化の紹介や観光案内などを実施しています。

またリサイクルの自転車を提供し、買い物やアルバイトなどの足として日常生活に役立ててもらっています。

平成7年から帰国して大分市に住んでいる中国残留邦人家族の身元引受けや生活の自立支援、日常会話の指導などを行ってきました。

現在は中国残留邦人帰国者の生活も定着し、新たな中国残留邦人の帰国もなくなったため、年2回の交流会や日帰りのバス旅行などを中心に楽しく交流を行っています。

会員一同「お互いに思いやりと助け合い！ 心の交流！ 楽しく勉強を！」をモットーに活発な活動を続けています。

日中友之会

会長 渡辺陸典

大分市上宗方 519-1 コーポ上宗方

電話 097-541-3688

人物の紹介

～国際的に活躍している人々の紹介～

ドイツ連邦共和国総領事館 副総領事
シュテファン・ビーダーマン
Stefan Biedermann

インタビューアー
グリツマハー・ゼンケ



La Estacion: 日本の好きなのところはありますか？

副総領事: 日本人は非常に付き合いやすい国民だと思います。日本の食文化や温泉も好きです。また、日本人の几帳面で品行方正なところも気に入っています。時が経つにつれて日本のことがますます好きになってきました。

La Estacion: 副総領事という仕事の好きなのところはありますか？

副総領事: 外交官は色々な国に派遣され、広く世界を知ることができるので、これに勝る仕事はないと思っています。外交官の仕事でもっとも大切なことは、ドイツを代表するというところ、そして次にドイツ政府に日本の情勢を報告することです。さらに、ドイツの政治家が来日するときに随行し、日本の政治家をはじめ各界の著名な人物に引き合わせることも重要な任務です。最近の例を挙げますと、連邦首相府文化メディア担当国務大臣が訪日された際、山田洋次監督との会談をアレンジしました。

La Estacion: 日本人から「日本人とドイツ人は性格がよく似ている」と言われますが、それについてどう思いますか？

副総領事: 両国は、互いに紋切型のイメージを抱いてしまっていますが、それは致し方ない部分があります。しかしながら、自分の国を正しく

紹介するためには、そうしたイメージを上手く利用しなければならないと思います。ドイツ人と日本人の共通点は、時間を守ること、清潔で綺麗好きなのところと昔から言われていますが、そうしたイメージは時代遅れだという気がします。両者の一番の共通点は、物事に対する徹底的で厳密なアプローチの仕方ではないでしょうか。両者とも物事を深く考え、一所懸命取り組み、目標を達成するという国民性がありますが、その辺りが私が特に好きな点です。

La Estacion: 日本とドイツとの現在の関係をどう特徴付けますか？

副総領事: あるドイツ人ジャーナリストの言葉を借りると「友好的な無関心」とも言える状況です。もっともっと努力しなければなりません。相互の関心を高めるためには、人の交流がもっとも大切だと思います。なぜなら、海外に行くと外国を自分の目で見れば、関心が高まって考え方も変わるからです。

La Estacion: ドイツのすべきことは何ですか？

副総領事: ドイツと日本は共通する問題がたくさんあるので、お互いに学び合い、教えることができます。例えば高齢化問題等についてはドイツが日本に学べるものが多くあります。また、財政的な問題から予算が削減されがちで

すが、人的交流をさらに促進していけたら良いと思います。

La Estacion: あと日本でしてみたいことはありますか？

副総領事: もう一度ゆっくり日本を旅行し、日本の都市と地方の違いを見たいので、特に地方に行ってみたいと思っています。とりわけ日本アルプスや霧島屋久国立公園等に見てみたいです。

La Estacion: 読者へのメッセージはありますか？

副総領事: 1980年代に日本が進めていた「国際化」はもう終わってしまい、日本はますます内向きになり、日本人は世界への関心を失ってしまったのではないかと懸念しています。ですから、インターネットだけで世界のことを理解できるはずなど決してないのだということを、特に若い人々に伝えていきたいです。世界を知るには、海外に出て、諸外国を訪ね、自分の肌で感じ、自分の目で見るとしかありません。ですから、若い人にはもっと海外旅行や留学をしてもらいたいと思います。

JICA デスク大分 からのお知らせ

JICAボランティア募集の時期(平成23年度春募集は4月1日～5月16日)がやってきます。開発途上国での技術支援や人材育成支援を目的に派遣されるJICAボランティア。今回は「青年海外協力隊」(20歳から39歳まで)「シニア海外ボランティア」(40歳から69歳まで)を募集します。

JICAボランティア Q&A

Question
1

派遣期間は？

A 2年間

Question
2

今までの派遣者数は？

A 4万人以上
(平成22年11月30日現在)

Question
3

今までの派遣国数は？

A 88カ国
(平成22年11月30日現在)

Question
4

職種
(技術や経験)
の数は？

A 120種類以上

詳しくは、<http://www.jica.go.jp/volunteer/>をご覧ください。

4月には大分市で募集説明会を開催します。予約不要・入場無料です。

「青年海外協力隊」説明会：4月23日(土) 14時～ 大分市コンパルホール 4階アートルーム

「シニア海外ボランティア」説明会：4月23日(土) 14時～ 大分市コンパルホール 3階305会議室

※毎月『協力隊ナビ』(個人相談会)も実施中! 協力隊の経験者にしっかりと相談に乗ってもらえます。詳しくは下記デスクまで。



国際協力推進員の川崎(かわさき)までいつでもどうぞ

〒870-0029 大分市高砂町2-33 iichiko 総合文化センター地下1階 国際交流プラザ内
TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052 E-mail: jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp



2011 月間スケジュール

monthly schedule



プラザのカウンセリング・各相談室のご案内

カウンセリング

場所：iichiko 総合文化センター B1F おおいた国際交流プラザ
お問合せ先：TEL：097-533-4021 FAX：097-533-4052
E-mail: in@emo.or.jp

中国語無料相談

毎週火曜日と木曜日
時間：火曜日：13：00～16：00
木曜日：10：00～13：00
会場：国際交流プラザ
申し込み：不要
相談員：崔 文玉（ツイ・ウェンユウ）
相談料：無料
※県内在住中国語圏の方のための相談室です。

新 タガログ語無料相談

大人気で月に2回開催することになりました！
毎月第1土曜日と第3火曜日
時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ
申し込み：不要 相談料：無料
相談員：吉武ロドラ（大分県フィリピン友好協会 会長）
※悩み事を抱えている方、タガログ語で気兼ねなく話をしたい方はプラザにお越しください。

入国・在留国際手続無料相談

毎月第1日曜日
主催：ライフサポート大分
時間：13：00～16：00
会場：国際交流プラザ
相談料：無料 予約：必要
対応言語：日本語・英語
※主として法律相談ですが、それ以外の内容でもお困りの場合はご来館ください。また、相談内容が外にもれることはありません。お知り合いの外国籍の方がトラブルや悩みを抱えている場合には、その方にぜひお伝えください。外国の方とのかかわりの中でお悩みの方の相談も受け付けます。

在住外国人のための無料相談室

毎月第3水曜日
時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ
申し込み：不要
※ただし、日本語、英語以外による相談は、通訳手配のため、2日前までに要予約。
相談員：伊藤精（行政書士）
相談料：無料
※県内在住外国人のための相談室です。

APR

2日（土）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

3日（日）入国・在留国籍手続無料相談（毎月第1日曜日）

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ
主催：ライフサポート大分

19日（火）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

20日（水）在住外国人のための無料相談（毎月第3水曜日）

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

23日（土）日本語deトーク

テーマ：スポーツと運動
時間：13：00～14：30
場所：iichiko総合文化センター B1F 《国際交流プラザ》
定員：10名（先着順）※予約必要 参加費：無料
TEL：097-533-4021 E-mail：soenke@emo.or.jp

23日（土）外国文化理解講座 ～中国編～

内容：中国のテーブルマナーや礼儀作法など（詳細は右側参照）
時間：14：30～16：00
場所：iichiko総合文化センター B1F 【映像小ホール】
予約：不要 受講料：無料
TEL：097-533-4021 E-mail：in@emo.or.jp

MAY

7日（土）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

17日（火）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

18日（水）在住外国人のための無料相談（毎月第3水曜日）

時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

21日（土）日本語deトーク

テーマ：旅行と有名な観光地
時間：13：00～14：30
場所：iichiko総合文化センター B1F 《国際交流プラザ》
定員：10名（先着順）※予約必要 参加費：無料
TEL：097-533-4021 E-mail：soenke@emo.or.jp

21日（土）外国文化理解講座 ～韓国編～

内容：韓国のテーブルマナーや礼儀作法など（明細は右側参照）
時間：14：30～16：00
場所：iichiko総合文化センター B1F 【映像小ホール】
予約：不要 受講料：無料
TEL：097-533-4021 E-mail：in@emo.or.jp

28日（土）国際交流理解講座 ～韓国映画編～

内容：未定（5月ごろwww.oitaplaza.jpをチェックして下さい。）
場所：iichiko文化センター B1F 【映像小ホール】
予約：不要 受講料：無料
TEL：097-533-4021 E-mail：in@emo.or.jp

4月	5月	6月	7月
日本語deトーク スポーツと運動	日本語deトーク 旅行と有名な観光地	日本語deトーク 故郷	国際理解講座 特別編
外国文化理解講座 中国の風習・マナー	外国文化理解講座 韓国の風習・マナー	外国文化理解講座 フランスの風習・マナー	
	国際理解講座 韓国映画編	国際理解講座 特別編～在住フィリピン人について（仮題）	
8月	9月	10月	11月
日本語deトーク テーマ未定	日本語deトーク テーマ未定	日本語deトーク テーマ未定	国際フェア
外国文化理解講座 中国に渡った日本の音楽	外国文化理解講座 韓国の伝統音楽	外国文化理解講座 フランスの美術館・博物館巡り	日本文化理解講座 日本のビジネス・マナー
国際理解講座 映画編～中国編～	日本文化理解講座 太古の体験セミナー	国際理解講座 特別編	
12月	1月	2月	3月
日本語deトーク テーマ未定	日本語deトーク テーマ未定	日本語deトーク テーマ未定	
外国文化理解講座 中国の恋愛と結婚	外国文化理解講座 韓流ブーム	外国文化理解講座 フランスのファッション	
国際理解講座 映画編～アメリカ編～	日本文化理解講座 伝統文化の体験（未定）	国際理解講座 特別編	

※以上の内容と開催月等の変更する可能性があるため、「La Estación」、またはHP(www.oitaplaza.jp) をチェックして下さい。

▶ 平成23年度の国際交流・国際理解イベント

新 外国文化理解講座

予約不要・受講料無料で、どなたでも気軽に外国の文化を学べる外国文化理解講座。今年度は、中国、韓国、フランスの講座を開催します。大分にながらにして、それぞれの国の文化に触れてみませんか??各テーマに関連したワンフレーズレッスンなどもあり、外国の文化と言語を学びながら、一緒に国際交流をしましょう!!

新 国際理解講座 ～特別編・映画編～

国際理解講座は、広く県民の国際感覚を涵養し、国際交流・国際協力・多文化共生の果たす役割等について学ぶことを目的とした「特別編」4回と、在住外国人が自国の文化や歴史的背景を紹介し、その国の映画を観賞する「映画編」3回を開催します。

新 日本文化理解講座

外国籍県民を対象にして、日本の風習・マナーを紹介したり、伝統的な文化等を体験してもらうことで、日本での生活をよりゆとりあるものにするために、日本文化入門として、文化の国際交流ができるきっかけになるイベントです。多言語通訳者も参加します。

新 国際フェア

このイベントはおおいた国際交流プラザのメイン・イベントです。外国籍の方々や各団体がパフォーマンスなどを通して様々な異文化を紹介します。一方、外国籍の方々はワークショップで日本文化を体験することもできます。そして、国際交流・国際協力団体のブース展示でそれぞれの活動を知り、色々な面白い人に会うことができます。文化交流、多文化共生、国際交流、ネットワーキング・・・発見できるものが多いイベントです。

日本語deトーク

国際交流プラザでは日本人と外国人の相互理解を目的に、毎月1回土曜日に日本語deトークを開催します。この日本語deトークでは、日本人と外国人が各国の文化の違いなど、毎回異なるテーマに沿って日本語で話し合いをし、気軽に交流をします。日本人、外国人のことを知ってもらいたい方、理解したいという方、もちろん、「何だかおもしろそう!」という好奇心旺盛な方も大歓迎です。興味があるテーマに気軽に参加してみませんか?同日の外国文化理解講座の前に開催します。

新 OIP Language Exchange Program OIP語学交流プログラム

あなたの外国語学習のため、ネイティブの会話相手をお探しします。外国語を精一杯努力して勉強しているのに、あるいはせっかく海外で学んできたのに、ネイティブの会話相手がいない、または活用する機会がない、そんな方はおおいた国際交流プラザまでご連絡下さい。語学交流、すなわち日本人と外国人双方の勉強・会話相手を募集し、マッチングする事業を開催します。

わたしたちの声を聞いてください!

「田舎でも未来は国際的かも…」

吉武ロドラ

大分に住み始めてもう26年です! 人生の半分はここで過ごしています。昔に比べると今はものすごく外国人に優しい社会になったと思います。色んなところでローマ字か英語で書かれているものや英語で説明されているものが多くなりました。仕事でも外国人を受け入れる会社も増えました。

昨年、ある所の英語弁論大会を見に行きました。びっくりしたのは子供たちの英語で話す時の表現力の豊かさ! 自信にあふれた話しかたに、発音の素晴らしい! 皆さんの頑張りに本当に感動しました。

我が家の話です……去年の夏に末っ子の娘(中学二年生)が「お母さん、本場の英語を身につけたいので短期留学したいんだけど、行っても良いかな?」と。私は迷うことなく「良いことだね! 行ったほうがいいよ。でもその前に先生と校長先生と相談しないとね」と返事をしました。

結局、先生方のあたたかい応援で娘は一ヶ月間留学しました。親として14歳の娘の初めてのアメリカですので、心配でアメリカまで送って行きました。向こうの先生方も優しく、クラスメート達もあたたかく娘を迎えてくれたせいか、すぐに仲良くなりました。アメリカの学校に通いだして3日目に、先生が娘に「日本の政治についてレポートを作って、プレゼンをしてね」と言いました。心配でしたが娘はプレゼンに成功しました。私は先に帰ったので娘は帰りは一人でしたが、本人が言うにはロスのトム・ブラッドリー空港のチェックインカウンターから日本に帰ってくるまで、客室乗務員が付き添ってくれたからとても良いフライトだったそうです。きっと全てが良い経験になったでしょう。

大分の学生たちが小さい時から外国語を学びたい、外国人と国際交流をしたい、という気持ちを持って、そして周りの大人たちがこれをフォローすることで、大分の未来も国際的になるかもしれません。



INFORMATION

超便利!!!

登録
しませんか?

OIPM

国際交流プラザ無料配信メール

国際交流プラザのイベント情報や大分県の生活情報などをE-mailでお届けします。言語は日本語・やさしい日本語・英語・中国語です。国際交流プラザのイベント情報はこれにご登録いただくと、もれなく入手できます!

登録方法はとても簡単。

携帯電話またはパソコンから空メールを送り、その後返信されるメールの内容にしたがって登録手続きをするだけです。ご希望の言語を1つ選び、それぞれのアドレスに空メールを送って下さい。

以下のご希望の言語のメールアドレスまで空メールを送ると、登録ができます。

日本語: jpn@oipm.jp

やさしい日本語: ejp@oipm.jp

英語: eng@oipm.jp

中国語: chn@oipm.jp

登録は無料です。

「登録の仕方が分からない」という方は、in@emo.or.jpにメールをして下さい。国際交流プラザのスタッフが代わりに登録いたします!

編集 後記

先月の2月25日に、「平成22年度第2回国際交流研修会」を開催いたしました。市町村の国際交流担当者や県内国際交流団体等の方が合計40人程集まり、臼杵市都市デザイン課まちづくりグループの中津留可乃さんが講師を務めた「2010甘肅省国際交流員研修プログラムに参加し

て」と題した講演、そして、国際交流プラザのタガログ語相談員も務める、大分フィリピン友好協会会長吉武ロドラさんの団体事例紹介の話を耳を傾けました。

その後意見交換会を行い、多くの参加者が意見やコメント等を発表したり、活動をアピールしたりしました。大分県内の国際交流団体のネットワークが、さらに緊密になったのではないかと思います。

今後もより多くのお客様のご参加をお待

ちしております。よろしくお願いいたします。

グリュツマハー・ゼンケ



おおいた国際交流プラザ

La Estación

ラ エステーション

2011 Vol. 30

発行日 平成23年3月29日(奇数月末発行予定)
編集・発行 (財)大分県文化スポーツ振興財団
国際交流プラザ

〒870-0029 大分市高砂町2番33号

iichiko総合文化センター地下1階 iichiko Space Be内

開館時間: 9:30~19:00

閉館日: 日曜日・祝日及び第2・4月曜日とその週

の土曜日※ただし閉館日が祝祭日の場合はその翌日

TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052

E-mail: in@emo.or.jp

URL: <http://www.oitaplaza.jp/>

